



市長 齋藤 善蔵

市制30周年を契機に 希望ある街づくりを進める

昭和五十九年の新春を迎え、市民各位のご健康とご発展を心からお祈りいたします。

本年は、市制施行三十周年の記念すべき年に当たります。過去を振り返り、将来に向けて飛躍するために、記念行事・事業を実施すべく、ただ今準備を進めておりますが、皆様方のご協力をお願いいたします。しかし、これが単なるセレモニーに終わることなく、低

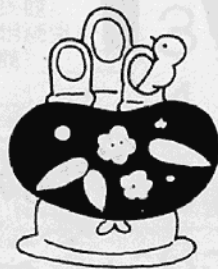
成長を強いられる厳しい現状を見つめ直す機と捉え、激しく変る社会情勢、行楽趣向に対応するための契機にして参りたいと思ひます。

昨年は、永年の懸案であった杜寺の理解も成立し、文化観光施設税の設定も杜寺の理解の下になされ、古河精密の増設を始め、古河電工のここ数年の資本投下が二百億円を越える等、明るい街造りの兆しが見えつつあります。しかし、人口対策、観光、福祉、医療等々、当面対応を迫られる問題が山積しております。私は、本年も市民に対する行政サービ

スが市政の目的であることを再認識し、市政懇談会や、あらゆる機会に市民の皆様のご希望をお聴きし、限られた財源の中で最大の努力をして参りたいと考えています。

策定された「日光市の望ましい未来像」についても、三十周年記念事業と併せ、例えば郷土センター建設、七里土地区画整理事業等を実現していきたいと思ひます。同時代に日光に生きる皆様の参画が、これからの街造りには不可欠です。本年もよろしくご指導、ご協力をお願いいたします。

加賀和五十九



市議會議長

小平恒治

市民生活の向上を目指した 議会活動に努力したい

市民の皆様、新年明けましておめでとうございませう。

皆様には、日ごろから市政に対しまして、暖かいご理解と絶大なご協力を賜わり、厚くお礼を申し上げます。

今日、社会経済は、回復の兆しにあるとはいいながら、速度はなお緩慢で、財政事情は依然として厳しい状況が続いております。

他方、当市をとりまく諸情勢は、過疎化問題をはじめとし、高齢化社会への対応、医療保険の問題、及び、福祉、教育等の各般にわたる行財政の需要が増加の一途をたどり、加えて、質・量ともに複雑多様化する傾向が強まるなど、本年も更に厳しいものがあります。

昨年の統一地方選挙から、新たに二十二名の陣容で出発いたしました私達は、皆様の声を、より多く市政に反映するよう最大の努力をいたしております。同時に、議決機関としての役割を十分に發揮して、市民生活の安定

向上のため、創意工夫を重ねながら、ご期待にこたえるよう、決意も新たにいたしております。

市制施行三十周年という記念すべき昭和五十九年を飛翔の年として、執行機関ともども将来のあるべき姿を目指し「今年こそはの今年こそ」を繰り返さないよう、着実な歩を進めていく覚悟です。

ここに、皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、変わらぬご支援、ご協力をお願いして、新年のご挨拶といたします。